「被災地の早期復興」や「全国や世界へ発信できる優れた技術開発と実装」の「**課題解決を阻害している要因**」

第5回協議会の資料５－２－３の加筆修正
第５回御発言を赤字で追加、青字で修正。
【AP】はアクションプラン関係の比重の大きい御発言。

東日本大震災からの復興・再生を遂げ、
地域住民の安全で豊かな質の高い暮らしが実現できる社会
～被災地の早期復興～

東北地方の災害からの復興・再生をモデルとして、
より安全、かつ豊かで質の高い国民生活を実現できる強靭な社会
～全国や世界への発信できる優れた技術開発と実装～

意志決定や採否の検討・判断が出来ない

技術を現地実装まで進展できていない

利活用できる技術が無い

研究開発に現地ニーズ等が汲みきれてない。

1 行政の意志決定の権限分担が、緊急時・復興期の権限分担として適切に機能していない
テンポ良く復旧・復興を進めるのに市町村と県・国の権限関係が今のままで良いのか？
生活圏が広域化している中で、計画作りや意志決定が体系的に行えていない。
自治体だけで決められないことがあり、復旧・復興の妨げになっている。
非常時の意志決定を、誰が、どのような場面でやるのかの仕組みができていない。

2 現場のリーダーやアドバイザーの行政上の権限と責任が明らかになっていない

3 民間・大学等からの多数の提案に対して、自治体や事業者が、技術的な選択や判断をする時間的・技術的・経済的な判断能力の限界を越えている
自治体がどのように判断すれば良いかのアドバイスができれば良い。

14 復興を担う人材、支援できる人材が不足している。
地域のコーディネータの育成
分析の手法を知り、有効な判断をできる人材・専門家の不足
人材育成・研修を促すようなR＆D税制のような仕掛けを

4 すぐに使える段階の既存技術・シンプルな活用可能な技術を、現場に活かす技術・仕組みが出来上がっていない
見つかっていること、明らかになっていることを、実践の場に適用することが重要
既存技術を組合せ、社会科学と一緒に行動することで、処理できる課題があるはず
すぐに使えるシンプルな技術で、災害時に威力を発揮するものを防災技術として位置づけを
新規技術を必要とせず、標準ﾌｫｰﾏｯﾄ化で解決する場合は、誰が音頭を取るか。

5 使い慣れていない技術を、現場に実装する際の利用者を支援する仕組みが不十分
現場は、 技術実装までの助走を社会実験などで後押しする制度が求められている
復旧事業の技術採択にあたり、新技術や先端技術が贅沢品扱いされる
災害時に必要な機械類の所有・管理と費用負担のルール（大型シュレッダー）
住民や職員が技術を受容できる利活用フェースも含めた長期的な支援制度が重要
特定の自治体による成功モデル構築や、手続きの簡略化を
科学技術施策は、民間投資を促進・誘導する施策とセットで考えるべき。

6 緊急時・復興時にも、平常時と同じ水準の規制・サービスを基準とすることが適切か？
平常時対応と非常時対応との環境変化に対応するための技術
災害時に適用する各種基準、規制のあり方、科学技術に基づいた災害時特例基準づくり
（例えば、津波遡上による堆積物の盛土・嵩上げにおいて環境基準の適合が必須か？）
被災後に情報利活用が求められたが、外的脅威、サイバーテロへの脆弱性対応ができていたか？

7 新技術の現場実装を促す条件整備
「創業・雇用に結びつく・・」ためには重要な産業基盤の創造を。・・・・産学連携を活かすためのファクトファインディング、大学の体制、地域コーディネート人材や組織、マネジメント方針など
現地での操業に結びつけていくためには税のインセンティブと規制緩和

8 先進事例、成功事例の情報を共有する仕組みが出来上がっていない

9 異分野・新分野に亘るニーズ・シーズをマネジメントする人材及び人材（技術）交流の不足
産学官等の縦割りや専門分化などによる「壁」のブレークスルー
イノベーションには異質の世界の人達の接触を如何につくるか

10 必要なニーズ、潜在化しているヒントを研究開発に反映する技術や仕組みが不十分。
地域で潜在化しているものにヒントを得て役立つものを考える実践プロセス技術の開発
技術を使う側のニーズが上手く取り込まれた使い勝手の良い仕組みを
【AP】科学技術がﾊｰﾄﾞｻｲｴﾝｽに偏重することの限界。ｿﾌﾄｻｲｴﾝｽや思想と共に。

（10-2 協議会で必要と判断した重点的取組・施策の推進体制、ガバメントの構築）
【AP】協議会が必要とした重点的取組の施策・実施主体がない場合は、予算措置と実施体制を創るべき
【AP】重点的取組を積上げ方式で進めることに限界。ガバメント、リーダーシップ発揮を。

11 様々な要素が入り複合化した場合に生ずる「課題の発見」や「成功事例」を把握のためには、定点観測が有効
地元立地の有力企業にかかわる研究テーマ選びを

12 適切な技術が無いことが、目標達成を阻害している。
汚泥中のセシウムなどの分離と、除去した放射性廃棄物の保管
減災を担う技術の研究をより推進すべき

13 研究開発の推進体制に改善すべきことは無いか？
アクションプランのテーマとファクトを誰がどのような体制でやるか？
研究者以外も参加するプロジェクトのマネジメントのあり方

（13-2 アクションプランのマネジメントする組織・体制
【AP】政策課題と施策にｷﾞｬｯﾌﾟ。研究のﾘｰﾄﾞやｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝをする組織が必要。（⇒戦協）
【AP】施策が伴わない重点的取組は、横連携がやりにくいことが原因では？

（13-3 アクションプランの重点的取組の施策等の構成の進め方
アクションプランの個別施策実現のためのボトルネックを具体的に紐解くべき
1 公募型研究において、達成目標に見合った研究応募が出されているか？
2 創業・雇用に結びつく事業化を目指す研究の推進体制に改善点は無いか？
3 基礎研究・調査を実施する側が、成果の利活用側ニーズを十分に汲めているか？

技術・制度・資金・人・インフラのどれがかけても社会還元は困難。研究をモニタリングする仕組みが必要
大学内の体制・運営の仕組み見直しや自治体との連携
オープンイノベーションにおける研究成果や知財のマネジメントの改善
【AP】一見ダブって見える施策の調整が十分出来ているか？
【AP】PDCAサイクルで評価可能な明確な目標設定が出来ているか？

15〔課題抽出のアプローチ方法〕
復興特区の取り扱いが参考になろう。
現場であったことを理解することが不足
ディテールを見てわかるようなことの解決を期待されているのでは？
個別施策の実施の条件を見れば課題が潜んでいるのでは？

その他
○ **協議会の進行**
協議会のスケジュールが冗長。ＰＤＣＡを回し、必要に応じて研究のstop判断も
個別施策の緊急度を精査して、重点的取組決定から市民等に届くまでのプロセス見直しを
個別施策を進めれば「目指すべき社会の姿」になるのかの検証が必要。

16 対応方針のとりまとめに向けての提案
課題解決を阻害する要因の分析
人、組織、金、業務プロセスなどカテゴリー別に分けて、共通項を括り出すと分かりやすい。
主語を明確にすると、議論が明確になる。
「仕組みの見直し」のまとめ方
上手く動いている事例を素に、普遍化を目指すとDにたどり着ける。
資料5-2-4で、**右のDに行くほど包括的な内容・レベル**に。
「政策課題A」と「解決すべき課題B」の間に「政策課題に対する課題」を追加。